



本校と表郷小学校の取り組みが 県南の全小中学校へ紹介！

福島県教育庁県南教育事務所で発行しています「学校教育課通信 第172号」に、本校と表郷小学校の取り組みが紹介されています。この通信は、県南の小中学校での良い取り組みを全小中学校に紹介しているものです。今回は、学校図書館の活性化をはじめ、ビブリオバトルの取り組みなどについて紹介しています。【この通信は、12月22日前後に、福島県教育庁県南教育事務所ホームページに掲載されます。是非、御覧ください。】

本校のビブリオバトルでチャンプ本・準チャンプ本に輝いた岡部結菜さんと根本若奈さんが小学校でビブリオバトル風に本の紹介をしたことは、すでに皆様に御紹介しました。そのことが、今回の「学校教育課通信 第172号」に掲載されました。小学生が真剣に聞き、活発に質問したこと、中学生が小学生に分かりやすく語りかけたことなど、小学生の良き体験の場となっただけでなく、中学生にとっても貴重な体験となったことを伝えています。本校と小学校の取り組みが、県南の最先端の取り組みとして紹介されていることを、大変誇りに思います。これからも、このような機会を継続して設定できるよう、小学校と連携して進めて参ります。



情報モラル教育、授業研究会実施！

本校は、県教育委員会から「メディアリテラシー育成事業」の情報モラル教育研究指定校として選出されています。12月20日(月)、本校の1年1組で、情報モラル教育に関する道徳の授業研究会を実施しました。静岡大学准教授塩田真吾先生のリモートによる御指導や県教育委員会から3名の先生方が来られて御指導をしていただきました。今年度1年目の研究でしたが、様々な授業を展開してきました。また、保護者の皆様にはアンケートに御協力をいただきました。



今、タブレットが一人一台貸与され、益々、情報モラルの重要性が叫ばれています。今回の授業は、「ルールをどうやったら守れるか」という観点で展開されました。「ぜったいだめ」「やるな」だけでは良くならないということで、「なぜ、だめなのか」「具体的にどうやったら守れるのか」を考えました。授業後の協議会では、家庭での話も出てきました。例えば、「ゲームを長時間やりすぎる子どもに対して、親はどのように接するか。」などです。「禁止する」「取り上げる」だけでは、根本的な解決にはならないということで、「なぜ、だめなのかを考えさせる」「どうすれば決まりを守ることができるのかを具体的に自分で考えさせる」ことが大切であるということでした。参考にしていただければ幸いです。

理科の授業研究会実施！

12月15日(水)、理科の授業を見て、授業のあり方を協議する研究会を実施しました。授業者は郷田剛先生で、3年1組で授業を行いました。これまで、月の満ち欠けについての学習を進めてきましたが、今回は、「金星の満ち欠け」についての学習でした。金星と太陽と地球の位置関係から、どのようなときにどんな形に見えるのかを調べました。私たちは、明けの明星・宵の明星として知られる金星を「一番星」と称し、よく見かけてきましたが、「金星にも満ち欠けがある」ということを考えたことはありません。天体望遠鏡で確認しなければ分からないことですが、実際の生活の場面では、「今日の金星はやけに明るい」とか「前より光が弱い」と感じる場合があります。その違いが、どのようなことから生じるのか学習することは有意義なことです。生徒の皆さんは、真剣に学習に取り組み、みんなで意見を交換し合いながら進めていました。生徒にとっても、大変おもしろい授業だったのではないかと思います。



太陽が出て、月が沈む時期

今朝、太陽が出てくるタイミングで、西の空に沈む月が見えました。11月から12月にかけて、このような現象が見られることが多いです。暗い中では明るく輝いている月が、徐々に明るくなると白っぽくなってきます。そして、太陽が昇るころには、月が沈むのです。昔、柿本人麿(かきのもとの ひとまる)がうたった和歌が、「万葉集(まんようしゅう)」に掲載されています。

東の 野に炎の 立つ見えて かへり見すれば 月かたぶきぬ
柿本 人麿

読み方は、「ひんかしの のにかぎろいの たつみえて かへりみすれば つきかたぶきぬ」です。「かぎろい」とは、陽炎(かげろう)のように明るくなってモヤモヤと見える状況です。この歌の意味は、「東の空を見ると、野山が徐々に陽炎が立ち明るくなって見え、振り返って見ると、月が西の空に傾いて沈んでいく。」ということです。

柿本人麿は、天皇の子どもである草壁皇子(くさかべのみこ)とその子軽皇子(かるのみこ)の2代わたり仕えました。天皇になるはずだった草壁皇子が若くして亡くなってしまい、その子どもの軽皇子が若くして天皇となりました。2人に仕えた人麿は、草壁皇子の死を悲しみながら、軽皇子の行く末を心配しました。ある朝、軽皇子と外を見たとき、歌のような光景が見え、人麿はそこで、登っていく太陽を軽皇子、沈んでいく月を草壁皇子と思ったのでした。【軽皇子は、第42代文武天皇になりました。】

私は、この時期になり、太陽が出てきそうになる際の月の様子を見るにつけ、この歌を思い出します。